

第1回医療経営実践協会 研究助成最終報告書

国内における病院勤務医の職務満足度の実態と、真の「働き方改革」に関する意識調査—戦略的医師マネジメントを目指して—

愛知医科大学 肝胆膵内科
角田圭雄

研究要旨：

本研究の参加に同意いただいた全国の病院勤務医師 286 名(男性 213 名、女性 61 名、無回答 12 名)に対して、仕事満足度調査および働き方改革の意識調査を行った。参加施設は社会医療法人敬和会大分岡病院、群馬大学病院、大阪急性期・総合医療センター、小松市民病院、愛知医大病院、大津市民病院である。背景因子としては週 60 時間以上の勤務が 47.9%、平均睡眠時間が 6 時間未満を 62.6%、勤続年数は 60.4%は 5 年以下であった。医局人事で勤務しているのは 60.8%であった。

病院勤務医の働き方改革に（表 1）に関して平均値が 3.0 以上であったのは、点数の高い順に、

- 1) 「医師事務作業補助者の活用による医師の生産性の向上である。」
- 2) 「家族と過ごす時間の確保である。」
- 3) 「書類作成業務の縮小である。」
- 4) 「勤務医師の健康状態(肉体、精神)に配慮することである。」

平均値が 2.5 未満であった項目は

「医師のブランド化を戦略的にサポートすることである。」のみであった

職務満足度の低い医師の方が、「労働時間の短縮」、「報酬の増加」、「家族と過ごす時間の確保」、「宿日直業務(時間外業務)を減少させること」、「労働時間をフレックスタイム制やシフト制にすること」に対するニーズが高い。したがって、これらの 5 つの働き方に関する取り組みを改善すると、医師の職務満足が高まる可能性がある。

以上より、病院勤務医において単なる労働時間の短縮ではなく、医師としての生産性向上への配慮が真の働き方改革であることが示された。ブランド化を戦略的にサポートすることには賛同が少なく、ブランド化によって集患し仕事量の増加を懸念した結果ではないかと推察された。一方、職務満足度の低い医師にとっては、労働時間の短縮が喫緊の課題であることが明らかになった。

表 勤務医の働き方改革に関する意識調査

質問項目	全くそう思わない	そう思わない	そう思う	非常にそう思う
1. 労働時間の短縮である。	1	2	3	4
2. 報酬の増加である。	1	2	3	4
3. 家族と過ごす時間の確保である。	1	2	3	4
4. 宿日直業務（時間外業務）を減少させることである。	1	2	3	4
5. 複数主治医性の導入である。	1	2	3	4
6. 患者との良好な関係を構築できるシステム形成である。	1	2	3	4
7. 自己研鑽に活用できる時間の確保である。	1	2	3	4
8. 女性医師の労働環境の整備である。	1	2	3	4
9. 医師事務作業補助者の活用による医師の生産性の向上である。	1	2	3	4
10. 電子カルテやIoTなどの情報技術（ICT）の活用である。	1	2	3	4
11. 書類作成業務の縮小である。	1	2	3	4
12. 学会や研究会への参加を奨励、サポートすることである。	1	2	3	4
13. 成果主義に基づく経済的インセンティブの付与である。	1	2	3	4
14. 最新の医療機器の導入や治験の獲得など医療レベルの向上である。	1	2	3	4
15. 職務内容を自律的に決定できることである。	1	2	3	4
16. 労働時間をフレックスタイム制やシフト制にすることである。	1	2	3	4
17. 専門医などの資格取得のサポートシステムである。	1	2	3	4
18. 医師のブランド化を戦略的にサポートすることである。	1	2	3	4
19. 医療の不確実性を患者に認識してもらう啓発活動である。	1	2	3	4
20. 同僚と良好な関係を構築できる環境の提供である。	1	2	3	4
21. 留学支援制度やキャリアサポートシステムを構築することである。	1	2	3	4
22. 勤務医師の健康状態（肉体、精神）に配慮することである。	1	2	3	4
23. 他職種へのタスクシフティング（業務移管）である。	1	2	3	4
24. かかりつけ医や他医療機関など地域における連携の強化である。	1	2	3	4
25. 産業医を含めた職務に関する相談窓口の活用である。	1	2	3	4